

第9章 活用

第1節 活用の基本方針

常盤橋門跡の活用事業は、史跡の価値を伝え、歴史性についての理解を促すため、主に常盤橋公園内での展示・見学支援による展開と各種の事業企画や刊行物及びデジタルコンテンツによる調査・研究成果の発信の2つを軸として進める。

展示・見学支援については、史跡の学びを必ずしも主目的としない訪問者、通行者も想定しながら、周辺の歴史ある街並みにふさわしい諸要素の活用や、史跡の価値の周知に取り組む。

調査・研究成果の発信は、史跡への理解を深める刊行物、web等のデジタルコンテンツの充実化を中心に行う。また、すでに千代田区が実施している他の施策との連携も図りながら多様な展開を試みる。

第2節 活用の方法

1 展示・見学支援による展開

(1) 史跡の本質的価値を伝える空間の形成

1) 本質的価値及び準ずる価値を構成する要素の活用

現存する枅形石垣と常磐橋の遺構を顕在化させ、史跡の本質的価値を体現させる空間の形成をはかる。また、すでに失われた遺構についても、調査研究の成果を踏まえながら再現や展示の方法を検討する。

また、枅形石垣と常磐橋の修理工事によって発生した旧材や発掘調査された遺物についても、史跡への理解を深めるための見学対象として、可能な限り現地での展示・公開を検討する。

- ・枅形石垣・常磐橋の照明、またはライトアート
- ・史跡の空間にふさわしい路面、植栽の整備
- ・失われた遺構（枅形石垣、渡櫓門、冠木門、土破、番所）の再現の検討
- ・旧材・遺物の現地展示（保管を含む）

2) 現地見学の支援

現地見学をサポートする目的で枅形地区・常磐橋地区に視点場を設け、説明表示を設置できるようにする。なお、設置に際しては、空間としての魅力や遺構の観察視点を損なわないよう先述のデジタルコンテンツなどと兼ね合わせながら過度な設置を控えるよう調整する。また、できる限りのバリアフリーと史跡を調和することで、歴史の重層性をより深めた整備をする。

- ・視点場の設定
- ・史跡説明板の設置
- ・ARやVRスポットの設置
- ・史跡範囲表示板の設置・管理

(2) 居心地の良いパブリックスペースの形成

1) 都市公園としての活用

一般の訪問者・通行者に対しても史跡の空間であることをさりげなく意識させるデザインを施し、昼夜を通じて居心地の良い空間形成を目指す。そのため、原則として立入りを開放する範囲をなるべく広くとれるよう整備や開発との調整をはかる。

また、多方面から史跡内にアプローチできるように見通しの確保や歩行者配慮に取り組む。

- ・ 工作物の色調・デザインの検討
- ・ 美観の向上と利活用に資する設備（ベンチ、花壇など）の設置
- ・ 公園照明の設置
- ・ 立入りエリアの管理・検討
- ・ 周辺の歩道の確保
- ・ 多様な人々の来訪を想定した合理的配慮



図 9-1 常盤橋のライトアップ

2) にぎわいの創出

市民団体や関連文化財の管理者等と連携し、各種のイベントの実施・招致に取り組む。

- ・ 橋洗いやゴミ拾いなどの史跡の保存や美化に関するイベント
- ・ 市民団体と連携した陸上・水上の見学イベント
- ・ シンポジウム、意見交換会、学習会などの学習イベント

2 調査・研究成果の発信

(1) 刊行物・総合的な展示解説による発信

1) 刊行物

常盤橋門跡について専門的に取り上げる刊行物を配備し、調査・研究成果を発信する。また、既存の媒体にも常盤橋門跡の活用を役割づける。

①常盤橋門跡ガイドマップの制作・頒布

- ・ 史跡の普及と実際に来て見て歩いてもらうことを目的として、調査結果をまとめたガイドマップを製作する。

②史跡及び関連する埋蔵文化財の調査成果をまとめた年次刊行物の制作・頒布

- ・ 「千代田区文化財研究紀要」を常盤橋門跡に関する千代田区の研究成果の公表の場として役割づける。

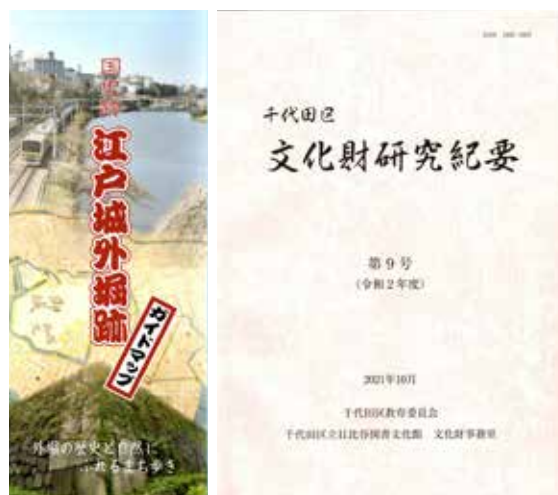


図 9-2 江戸城外堀跡ガイドマップ（左）、千代田区文化財研究紀要（右）

2) インターネットの活用

訪問・非訪問の両方を想定したオンライン用デジタルコンテンツや、見学を楽しめるツールの制作を行う。

①区ホームページまたは説明ページの充実化

- ・ 現地の文化財サインから QR コード等を介してアクセスできる多言語解説ページの制作を行う。区公式 SNS を活用し常盤橋門跡の価値や魅力の他、今を伝える写真や最新情報を発信する。

②三次元測量モデルや VR などを活用した非訪問での史跡見学コンテンツの検討

- ・ 三次元測量モデルや VR などを活用したデジタルコンテンツをホームページ上に掲載し、非訪問でも史跡見学を楽しめるようにする。

(2) 連携事業の企画による発信

1) 学校連携

区内の小中学生が、近世・近代の地域の歴史やその特性を学ぶ素材として活用してもらえよう、学校と連携した取り組みを進める。

①小学校社会科副読本への掲載

千代田区教育委員会が発行した「目で見える千代田区歴史」を改訂する際や、新たに小学校社会科副読本を改訂する際に、常盤橋に関する古い写真や絵図、現状写真を掲載して視覚的な面から理解を深めてもらう。



図 9-3 目で見える千代田の歴史

②現地解説、見学支援ツールの制作

課外授業等での見学支援に利用できるような現地解説、見学支援ツールを制作する。

2) 生涯学習・地域連携

区内外の一般市民が広く常盤橋門跡に関心を持ち、親しむためのきっかけと、学習の素材を提供する。

①常盤橋門跡を含む文化財ウォークの実施

- ・区民向けの野外講座、現在実施している江戸城登城ウォーク・外堀ウォークに加え、今後は常盤橋門跡を含む周辺の文化財ウォークを実施する。



図 9-4 江戸城外堀ウォークの様子

②常盤橋プロジェクトとの連携

- ・常盤橋プロジェクトで整備が予定されている大規模広場と史跡を含む常盤橋公園の連続性を高め、東京駅周辺と日本橋川沿いの回遊性の向上に寄与できるよう、事業者との連携を図る。

③常盤橋修理工事に関する映像記録の編集、貸出

- ・常盤橋修理工事の経過を記録した映像を編集し、貸出も行えるようにする。



図 9-5 地域の歴史を知る講座の様子

④常盤橋門跡に関する講座・講演会や移動教室の実施

- ・地域の歴史を知る講座

区民向けの座学講座として地域の歴史を知る講座を実施している。今後、常盤橋門跡に関する講座・講演会を実施する。

- ・ほりばた塾

区の職員が区民のもとへ直接出向き、行政の取り組みや様々な制度などについて専門的知識を活かして解説する講座。常盤橋門跡に関する出前授業の実施を検討する。

⑤市民団体との連携

- ・文化財保護調査員と市民団体との連携により、市民参加型のイベントや学習会の開催。

3) 学術連携

区内の大学や歴史学や都市デザイン等の関連分野の専攻過程を有する大学や研究機関と連携し、常盤橋門跡に関する学術的な関心を醸成する。

①多様なテーマによる学習機会の提供

- ・常盤橋門や常磐橋を題材に多様なテーマによる学習機会の場を提供できるようにする。
- ・小学生や中学生向けデジタルコンテンツを作成する。